

群馬を世界中に
自慢したくなる
街に

SINCE 2011



ジョウモウ大学
JOMO UNIVERSITY NETWORK

街でつながる人と人

人間関係の希薄さが嘆かれる現代社会の中で
「なにやら群馬が面白くなってるぞ」と、
全国からも注目される2つの団体があります。
街をキャンパスに見立て、誰でも生徒、
誰でも先生になれる「ジョウモウ大学」と
前橋で生活する人の「〇〇したい」を
カタチにするのを手伝う「前橋〇〇部」。
構築される新しいコミュニケーションがここに。
あなたも参加してみませんか。



前橋で
「〇〇したい」を
カタチにしよう。

前橋
部
Maebashi
bu

幅広い分野を網羅する授業は新しい出会いと発見がいっぱい

今までに 70 近い個性豊かな授業が開かれた同大学。過去の授業をちょこっと紹介します。



zine を作ろう！

小さいけれど面白い、
ハンドメイドの紙メディア

出版社ではなく個人が「作りたい」という情熱で作る小さな冊子「zine(ジン)」。手書きや切り貼りした原稿をコピーして留める、DIY 精神にあふれた表現媒体を制作する授業。



お茶席体験も！

伊勢崎銘仙を着よう！
銘仙丸ごと一日体験

現役で銘仙を作り続けている「かすり工房さいとう」にて着物づくりの手ほどきを受けながら手仕事の一端に触れた。相川考古館では銘仙に袖を通し、お茶席まで体験した授業。



オリジナルメニューを作ろう！

標名の自然の中で
ジェラートづくり体験

梨狩りから行い、梨ベースのメニューについて混ぜ合わせる素材やソースなど、作り方や食べ方の提案まで行った。オリジナルジェラートを考案し、製造工程すべてを体験した授業。



「活字部」誕生！

震災の影響で散乱してしまった活字を分類して、
棚に戻す現状復帰のお手伝い！

東日本大震災の影響で、棚から膨大な数の活字が床に落ち散乱した。それらを分類、棚に戻し整理をする現状復帰の手伝いをする授業。一度きりの授業が基本だが、活字授業は今まで 6 回開催され、授業から派生した「活字部」も誕生した。



大人のボードゲームナイト

ドイツをはじめとするヨーロッパで盛んなボードゲームを遊び倒す授業で、講師はおもちゃ屋「momo」の茂木夫妻。ゲームを通してコミュニケーションが広がっていく面白さを体験。お酒を飲みながら無邪気にはしゃぐ大人たちの声が響き、にぎやかな夜になった。

2014
2/21



先生と学生と一緒に
さまざまなゲームで
大盛り上がり！

受講料は無料

思いやりで広がるキャンパス



- 01 こんなにたくさんのゲームを一度に遊べる貴重な機会
- 02 引いたカードと同じになるよう指にゴムを掛ける早さを競う
- 03 「授業のアイデアもどんどん寄せて」と橋爪さん。学長の温厚な人柄が人を呼び寄せている印象を受ける



あなたもジョウモウ大学に参加しよう！

- 1 学生登録をしてみよう
ホームページから学生登録（無料）をすると、授業の申し込みができる。
- 2 ボランティアスタッフになってみよう
授業運営の手伝いを通じ、活動に協力したりさまざまな人と交流ができる。
- 3 誰かのために「恩送り」するには
寄付は一口 3000 円。サポーターとして誰でも活動を支援することができる。
- 4 先生になって「オモシロイコト」を広めよう
ユニークな授業を公募しているので、自薦他薦問わず気軽にチャレンジ！

詳しくはジョウモウ大学のホームページで
<http://jomo-univ.net/>

MOTOKONYA

学びと楽しみが同居する場

ジョウモウ大学が管理・運営する、高崎市元紺屋町の小さなコミュニティスペース。染物屋だった空き店舗をリノベーションして、誰もが気軽に集える場所を誕生させた。同大学の教室として使われるほか、カフェやクラフトビールスタンドの outlet、ワークショップや展示会の開催など、さまざまな形で活用されている。どこことなく懐かしい雰囲気が漂い、ついふらりと立ち寄りたくなる居心地の良さが人気。

MOTOKONYA (モトコンヤ)
高崎市元紺屋町 9
<http://motokonya.net/>



学びを通じ、新しいコミュニティを創り出すジョウモウ大学。校舎もキャンパスも持たず、県内全体が学びの場だと考え、月に2〜4回、多彩な講座を開いている。入学金・授業料は無料、誰もが学生にも先生にもなれるというのが大きな特長だ。

学長の橋爪光年さんが中心となり「街に居心地の良い場所、興味でつながるコミュニティを」と構想に2年半かけ2011年7月に開校。学びをきっかけに人が集まり、共感できる授業が話題となって、現在では学生登録が1100人を超えた。そのうち約20%は県外在住者だという。コミュニティの再構築を目的としているので、一つの授業につき定員は10名前後。抽選のため人気の授業は倍率が高くなるが、先生や学生同士の顔と名前が一致し、仲良くなれる距離感を保つために最適な人数設定になっている。

授業に参加すると充実した内容に驚き、無料だということに疑問を持つ人も多いだろう。同大学は活動に賛同する人々からの寄付と、授業を企画するコーディネーターや講師のボランティアで運営している。つまり、人の恩恵があり授業を無料で受けられるのだ。そのことに感謝し、授業への対価ではなく「次は自分が誰かのために寄付したい」という「恩送り」こそ、同大学が目指す思いやりの循環なのだ。それらが特別ではなく、日常になること。同大学がプラットフォームとなり誰もがやりたいことを表現できる場所として、これからも大きな輪が広がっていくだろう。

前橋で生活する「普通の人」が毎日をパーティーのように過ごす

「前橋で〇〇したい」をカタチにした部活動は数えきれないほど。気になったら即参加！



前橋パズル部



前橋自転車通勤部



前橋お弁当部



前橋忘年部

2013年は述べ
160人が参加。
求心力の高さが
うかがえる



前橋放送部

ドミノ部、歌唄い部、ふくしま部、あおもり部、ケンチク部、福祉ってなに？部、あみもの部、宅録部、子もり部、ブラレール部、格闘ゲーム部、学ラン部、かき氷部、ドミノピザ部、カレー部、ビール部、地酒部、おかし部、陸上競技応援部、朝valo部、朝活動部…
その数なんと70以上！！

- 01 みんなで1500ピースのパズルを44時間連続で作成
- 02 自転車利用活性化プロジェクト。自転車神輿も有名
- 03 お昼にお弁当を持って集まり、食べながら語らう

- 04 ワイン好きが集まり、共に学び楽しむ大人の部活
- 05 水曜20時、まえばしCITYエフエムにて生放送中
- 06 お薦めの本を紹介し、貸し借りを各自で自由に行う



ロゴのデザインをはじめ、前橋〇〇部が発信するもののデザイン性にも注目したい。「デザイン最重要」と挙げる同部だけあり、見る人の心をつかむセンスの良さが前橋のイメージを変えているかのようにさえ感じる。



前橋忘年部

bushitsu

JAPAN FREE SHOP ASSOCIATION

高いデザイン性がカギ

まずはFBで「いいね！」してみよう 前橋〇〇部
<https://www.facebook.com/maebashiooclub/>

bushitsu



部活動の拠点や交流に

前橋〇〇部の部室であり、やりたいことをやれる交流の場所として、弁天通り商店街の空き店舗をリノベーション。各部活動での利用のほか、イベントの場として活用されることも。国内外で活躍するアーティスト JUN INOUE さんによるライブペイント「DARUMAD」では、張り子の真っ白なだるまが次々にペイントされ、見事に迫力ある空間を生み出していた。

bushitsu(ブシツ)
前橋市千代田町 3-9-1
<https://www.facebook.com/bushitsu.maebashi/>



02



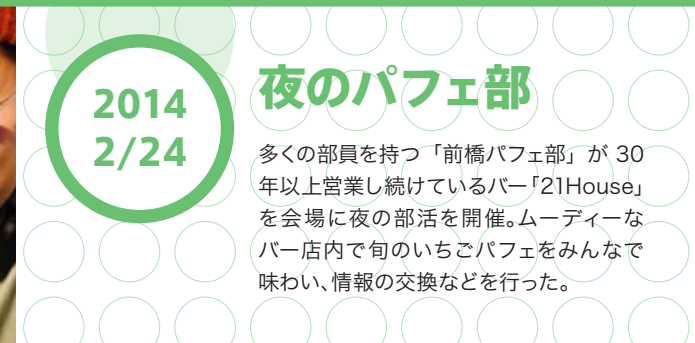
01

自由に楽しむ 好きなことでつながる部活動



前橋パフェ部

まずはスマホで
記念撮影。
パフェ部の部長
竹内隼人さん



2014
2/24

夜のパフェ部

多くの部員を持つ「前橋パフェ部」が30年以上営業し続けているバー「21House」を会場に夜の部活を開催。ムーディーなバー店内で旬のいちごパフェをみんなで味わい、情報の交換などを行った。



04

前橋シティランナーもりあげ部



05

もりあげビデオ撮影

第1回前橋・渋川シティマラソンを応援する「前橋シティランナーもりあげ部」がPR動画撮影を行った。中央通り商店街には部員を始め、多くの人が集まり活気にあふれた。

2014
2/8

中心街の空洞化が深刻だった前橋市が変わりつつある。その大きな要因として一役買っているのが前橋〇〇部の存在だ。「前橋」と「部」の間に好きな物やことを当てはめ、同じ思いを持つ仲間と出会い、部活動のように楽しみながらつながっていくというシステムを持つ。発足は2012年2月。部長の藤澤陽さんがすでに活動していた「前橋自転車通勤部」の岡田達郎さん、岡正巳さんと出会い、計画は一気に進んでいった。独自のホームページは持たず、情報発信はインターネット交流サイト「フェイスブック(FB)」で行う。設立から約2年で2000人を超える人々がFB上で関心を寄せている。

前橋〇〇部最大の特長は、誰もがいつでもどこでも部活を立ち上げられるということ。FBページで「なんとか部やります」と宣言するだけで、登録も承認も不要。共感を得て仲間が集まれば誰でも部長になれるのだ。既存部活への参加も退部も自由。とにかく敷居が低く、無理をせず自然体で楽しめる「ゆるさ」が人々の心をつかんだ。

この面白い取り組みはさまざまなメディアで紹介され、県内のみならず全国から注目されている。地産地消ならぬ「地企地遊」の精神に共感した県外の人がそれぞれの地元で活動を始め、全国22のご当地〇〇部が誕生している。

かつて「元気がない県庁所在地」などと言われた前橋市。ここで生まれた活動の大きな発信力は、市民のみならず県民の誇りでもあるだろう。